九州大学 経済学部 同窓会報 第81号

九州大学経済学部同窓会
事務局　〒819－0395
福岡市西区元岡744
　九州大学経済学部内
TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560
mail：dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp



九州大学法文学部創立100周年記念モニュメント「待ち合わせ」

目　次

令和8・9年度行事予定（総会のご案内）／1

支部だより

東京支部　事務局長　青柳　未央（平成18年修士卒）／3

関西支部　事務局長　凌　雲翔（平成16年卒）／5

福岡支部　福岡支部事務局

福岡支部交流ゴルフ会　第78回コンペを開催！

田川　真司（平成２年卒）／6

2026年度全国・福岡支部合同総会／８

講演録

・福岡支部総会 講演録

「経済学部同窓会の歩みと私の研究活動」

九州大学名誉教授　丑山　優／９

・東京支部七夕総会 講演録

「酒税とビールマーケティング」

東京支部　副支部長　野瀬　裕之（昭和61年卒）／10

追悼

・逢坂充先生を偲んで　進　研一（昭和63年卒）／12

・川端久夫先生を偲んで

塩次　喜代明（九州大学名誉教授）／14

特別寄稿

津守常弘先生とゼミ門下生たち

～96歳お誕生会ならびに受賞お祝い会 開催

田邊　晴康（平成５年卒）／15

津守常弘先生、日本会計研究学会学術褒賞を受賞

大石　桂一（平成2年卒）／17

国際学術交流振興基金執行状況報告

国際交流委員長　加河　茂美／19

卒業生就職状況／20

令和7年度決算報告／22

経済学部同窓会役員名簿／24

同窓会歴代会長／25

同窓会からのお願い／26

経済学研究院基金の創設とご支援のお願い／27

令和8・9年度行事予定（総会のご案内）

令和８・９年度の各支部総会を下記のとおり予定しております。
皆様、お誘い合わせの上、多数ご参集くださいますようご案内申し上げます。

令和８年度　広島地区九大法・経同窓会総会

日時　令和８年11月20日（金）18：30 ～
場所　ホテル広島ガーデンパレス
（広島市東区光町１－15－21　TEL：(082) 262－1122）
<お問い合わせ先>　広島地区九大法・経同窓会事務局
河岡　雄輝
TEL：(080) 9958－2176
E-mail：278828@pnet.energia.co.jp

令和９年度　全国総会&関西支部総会

日時　令和９年５月22日（土）15：00 ～
場所　ハートンホテル北梅田
（大阪市北区豊崎３－12－10　TEL：(06) 6377－0810）
<お問い合わせ先>　関西支部事務局長　凌　雲翔
E-mail：kyudai.economy.kansai@gmail.com;
unsyou98@gmail.com

令和９年度　福岡支部総会

日時　令和９年６月21日（月）18：00 ～
場所　八仙閣本店
（福岡市博多区博多駅東２丁目７－27　TEL：(092) 411－8000）
<お問い合わせ先>　福岡支部事務局　縄田　真澄
公益財団法人　九州経済調査協会内
TEL：(092) 721-4900
E-mail：soumu-02@kerc.or.jp

令和９年度　東京支部総会

日時　令和９年７月７日（水）18：00 ～
場所　喜山倶楽部
（東京都千代田区一ツ橋２－６－２　TEL：(03) 3262－7661）
<お問い合わせ先>　東京支部事務局　青柳　未央
E-mail：aoyagimio0528@gmail.com

支部だより

東京支部

１．新卒歓迎会開催！世代を越えて学び、つながる春の恒例イベント

東京支部では、関東地区に就職・進学する新卒のみなさんを迎える「新卒歓迎会」を、毎年４月に開催しています。

2026年は、新卒９名、既卒27名の総勢36名が参加しました。前半の講演では、東京支部の理事でもある水田晃斉さんより「AIとどう向き合っていくか」をテーマにお話しいただきました。

AIが急速に身近になる中、これからの仕事や日常にどう活かしていくのか。新卒のみなさんはもちろん、既卒メンバーにとっても関心の高いテーマで、講演後は世代を問わず次々と質問があがりました。中でも、新卒メンバーからの「新聞を隅々まで読む時間がない」という悩みに対し、水田さんからは、AIを活用して自分の仕事に関係するニュースを効率よく集め、必要な情報を押さえていく方法が紹介されるなど、すぐに実践できるアドバイスもありました。新卒歓迎会という枠を越えて、参加者全員にとって学びの多い時間となりました。

後半の交流会では、新卒と先輩たちが世代を越えて交流。社会人生活や仕事、キャリアのことなどを気軽に話しながら、新しいつながりが生まれる場となりました。

２．七夕総会開催！世代を越えてつながる、東京支部ならではの一夜

2026年７月７日、今年も神保町の喜山倶楽部にて、東京支部七夕総会を開催しました。

今年は、長年同窓会を支えてくださっている大先輩から、社会人になったばかりの新卒メンバーまで、幅広い世代が参加。特にうれしかったのは、コロナ禍以降久しぶりに新卒の参加者が10名を超え、若手メンバーも多数参加してくれたことです。

第一部の基調講演では、東京支部副支部長であり、サッポロビール顧問の野瀬裕之さんにご登壇いただきました。

テーマは「酒税とビールマーケティング」。普段何気なく手にしているビールですが、その価格や商品カテゴリーの裏側には、酒税の歴史と企業の知恵比べともいえる開発競争がありました。発泡酒や“第三のビール”も、制度の変化に向き合う中で生まれたものだったと知り、以来、スーパーに行くとついビールの商品棚に足を運ぶようになりました。

そして講演の最後、個人的に特に惹きつけられたのが、サッポロ生ビール黒ラベルの「大人エレベーター」のお話でした。さまざまな世代の“大人”の価値観や生き方に触れるあのCMは、箱根駅伝の際に流れるのを毎年楽しみにしているものの一つ。そこに「おいしいビール」というスペックや喉越しを超えた、「自分なりの価値観を持った大人同士が飲むビール」というブランドとしての想いが込められていることにも感銘を受けました。

そして、「丸くなるな、星になれ。」という言葉も印象的でした。長く愛されるブランドでありながら、守りに入らず、個性を磨き続ける。その姿勢が凝縮されたような、実に格好いいフレーズです。

経済、税制、マーケティング、そしてブランドの物語まで。満席で立ち見が出るほどの盛況で、会場





全体が惹き込まれる講演となりました。野瀬さんに心から感謝しております。講演の詳しい内容は、本号掲載の野瀬さんご本人による講演録「酒税とビールマーケティング」をぜひあわせてお楽しみください。

その後の懇親会では、卒業年次や仕事、立場を越えて、会場のあちらこちらで会話の輪が広がりました。

今回、初めて七夕総会に参加した方からは、「想定以上に参加者の年齢層が幅広く、特に卒業１、２年目の若い方が多かったことに驚きました。普段なかなか接点のない若い世代と話すことができ、とても刺激になりました」

「理事をはじめとする大先輩の皆さんが、仕事上の立場などに関係なく分け隔てなく接してくださるのは､この会ならではの醍醐味だと思います」といった感想も寄せられました。

また、来賓としてご参加いただいた現職の先生方のお話を聞き、「後輩たちをもっとサポートしたいと思った」という声もありました。

同じ経済学部という共通点があるからこそ、若手も大先輩も、自然に同じ輪の中で話すことができる。今回の総会は、そんな同窓会ならではの魅力を改めて感じる機会となりました。

３．卒業生と現役生の交流会＆東京支部全体忘年会、今年も開催します！

昨年､約60名にご参加いただき､大いに盛り上がった「卒業生と現役生の交流会＆東京支部全体忘年会」を、今年も開催します。

この交流会は、例年行ってきた経済学部・鷲崎先生のゼミの東京合宿に合わせた現役生と卒業生の交流会を、東京支部全体に広げたものです。

昨年は、現役学生から若手・中堅、そして大先輩まで幅広い世代が参加。同じ業界で働く卒業生同士の交流、学生から卒業生への仕事やキャリアについての質問など、世代を越えた交流があちこちで生まれました。

今年も現役学生との交流はもちろん、卒業生同士が気軽につながり、旧交を温めたり、新しい出会いを楽しんだりできる場にしたいと思っています。

七夕総会には参加できなかった方、久しぶりに同窓会に参加してみようという方も大歓迎です。土曜日の開催ですので、ぜひお気軽にご参加ください！

■開催概要

日時：2026年11月28日（土）19：00 ～

場所：GINZA ONO Gratia（東銀座駅 徒歩３分）

詳細は申込みページでご確認ください。

■お申込み先

https://kyukei-obog.tokyo/

※HPをリニューアル！昨年の様子もご覧いただけます。

４．イベント情報の連絡ツール、LINEオープンチャットへの登録のお願い

現在、イベント情報は同窓会報やメールを中心に発信していますが、転職や引っ越しで情報が届かないケースも増えています。そこで、LINEオープンチャット機能（個人LINEとはつながらず仮名登録可）を利用して発信しています。

イベント情報を確実にお届けするためにも、ぜひご登録ください。より多くの方とつながれることを楽しみにしています。

↓登録はこちら↓

https://x.gd/rawci

５．サポーター制度のお知らせ

同窓会の運営やイベントを可能な範囲で手伝ってくださる方、理事と交流してみたい方、同窓会活動に少し関わってみたい方など、大歓迎です。理事会後の懇親会には、サポーターの参加も歓迎しています。

連絡先：kyukeiobog.tokyo@gmail.com

理事は難しくても、「できることを、できるときに」。そのような関わり方ができるのが東京支部サポーター制度です。

同窓会は、参加するだけでなく、少し関わることでさらに面白くなります。ご興味を持たれた方は、九大経済同窓会事務局メール（kyukeiobog.tokyo@gmail.com）までご連絡ください。

【東京支部事務局長　青柳（旧姓：井手）未央（平成18年修士卒）】

関西支部

関西支部総会を盛況のうちに開催

令和８年５月23日（土）、大阪・ハートンホテル北梅田にて、第51回九州大学経済学部同窓会関西支部総会を開催いたしました。昨年に引き続き、講演会および懇親会を法学部関西支部と２回目の合同開催とし、総勢60名の参加者が集まりました。

第一部は、関西支部総会。清丸関西支部長の挨拶に始まり、凌事務局長より令和７年度の行事報告と令和８年度の行事計画、役員案（改選案）の報告を行い、平山会計担当理事より会計報告を行いました。年間を通じて若手会・ゴルフ会・見学会・理事会５回といった多彩な活動が着実に積み重ねられてきたことが報告され、出席者全員の拍手で承認されました。

続いて来賓のご紹介があり、九州大学経済学研究院長大西俊郎教授より、経済学部の現況と教育研究の最新動向についてご挨拶を賜りました。本年は「経済学研究院基金」が創設されたことが報告され、OB・元教員からのご寄付が後輩の教育および若手研究者の研究支援に活用されることとなり、参加者一同、母校への思いを新たにする機会となりました。



ご来賓挨拶

また、大西教授からは、福岡県との共同研究事業（浦川教授グループによる出生数改善・転出入者数改善のEBPM研究）や、グローバル・ディプロマ・プログラム（GProE）、人文社会科学系副専攻プログラムなどの最新の教育プログラムについてもご紹介がありました。AI時代における人材育成の方向性について、同窓生の知見を教育に反映させたいとの呼びかけに、会場からは大きな関心が寄せられました。

第二部は安藤副支部長の司会で経済学部と法学部の合同記念講演会が開かれました。講師には九州大学経済学部昭和55年卒で前綾部市長の山崎善也氏をお迎えし、「まちづくりと市長の役割」をテーマにご講演いただきました。





講演会風景

山崎善也氏によるご講演。日本政策投資銀行での30年にわたる企業金融のキャリアから転身し、綾部市長として４期16年にわたり市政を担われたご経験に基づき、人口減少時代における自治体経営のあり方について熱く語られました。SWOT分析の手法

を自治体経営に応用する視点や、「賢く縮む（スマートシュリンク）」という概念――緩和策と適応策を両輪とする持続可能なまちづくり――には、企業経営にも通じる普遍性があり、会場は深い共感に包まれました。「無い物ねだりより有る物さがし」「失敗を許す文化（若者・馬鹿者・よそ者の特権）」といった言葉は、参加者それぞれの現在の仕事や人生にも重なり、多くの気づきを得る時間となりました。

講演の終盤、権不十年という韓国の格言を引きながら４期16年で自ら身を引いた決断と、劇作家・平田オリザ氏の「下り坂をそろそろと下る」の言葉を引用した締めくくりには、静かな感動が会場を包みました。

第三部は法学部井上副支部長の司会で経済学部と法学部の合同懇親会がスタート。大学本部、福岡支部、東京支部からのご来賓をお迎えし、ご乾杯の後は世代や業種を超えた歓談の輪が広がりました。

昭和40年代卒から令和卒まで、幅広い世代が集う関西支部ならではの温かな雰囲気のなか、久しぶりの再会を喜び合う姿や、初参加の若手同窓生が先輩方との新たな縁を紡ぐ姿が随所に見られました。

今年も学生歌「松原に」の斉唱が力強く行われ、参加者全員の声が一つに重なるフィナーレで懇親会は幕を閉じました。終了後も多数が二次会に参加し、さらに交流を深めました。

参加者の皆さまからは、「山崎さんの講演が心に響いた」「OBの多彩な活躍を知ることができて励みになった」「合同開催でますます盛り上がった」「次回もぜひ参加したい」といった声を多数いただきました。

今後も経済学部・法学部関西支部での連携を一層深めてまいります。関西在住の同窓生の皆様には、ぜひ今後の活動にもご注目・ご参加いただければ幸いです。

【関西支部事務局長　凌　雲翔（平成16年卒）】





懇親会乾杯挨拶及び同窓生PRタイム

福 岡 支 部

福岡支部交流ゴルフ会、第78回コンペを開催！
～令和８年５月24日（日）伊都ゴルフ倶楽部

福岡国際空港株式会社
田川　真司氏
1990（平成２）年卒

令和８年５月24日（日）、伊都ゴルフ倶楽部にて第78回目となります、福岡支部交流ゴルフ会が絶好のコンディショニングのもと、開催されました。

私は同コンペで優勝させていただいた、平成２年卒で福岡国際空港に勤務しております、田川でございます。出身は飯塚です。優勝者恒例のコンペ報告でございます。

同コンペには昭和42年卒の柿本先輩を筆頭に58名が参加され、幅広い世代が交流できる貴重な機会となりました。また、九州のみならず、関東・関西からもご参加いただきましたこと、感謝申し上げます。

当日の同伴メンバーは、ベスグロ常連の道永同窓会会長（昭和56年卒）、明るく気さくな永島先輩（昭和60年卒）、元気に振り回してくる津江さん（平成８年卒）と同伴メンバーに恵まれ、楽しくラウンドできました。春季オリンピック？などを賑々しく開催したこともあり、アウト46イン44でグロス90。ハンデに恵まれたことによりネット70.8となり、優勝することが出来ました。

同コンペの優勝は３回目となり、第59回（平成27年11月29日開催）、第60回（平成28年５月22日）以来、10年ぶりとなりました。当時いただいたクリスタル

ガラスのトロフィーを捜索、発見いたしましたので、今回のものを含めて、写真に収めております。

次回も連覇記録を達成し、記憶に残る持ってる男となりますよう、万難を排して参加したいと存じます。

ベスグロは道永同窓会長の84で､山﨑正良さん(平成２年卒)、前回優勝の高田賢一さん（平成５年卒）も同スコアでした。メンテナンスが行き届いた高速グリーンにもかかわらず、80台が11名、90台が21名とハイレベルな大会結果となりました。

プレイ終了後は、恒例の参加者全員による30秒スピーチ（自己紹介および近況報告)、成績発表、橋本福岡支部長（昭和59年卒）より「諸事情で参加できなかった同窓生も複数いるので、次回はさらに組数を増やして交流ゴルフ会を盛り上げたい」との閉会挨拶で締めくくりました。

幹事を務めていただいた九州電力の面白トーク池田さん（平成11年卒)、永松さん（平成14年卒）をはじめ、ご準備いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。また、皆様より多数の賞品をご寄贈いただき、盛大な会を催すことが出来たこと、心より感謝申し上げます。

次回12月６日（日）も沢山の方々にご参加いただき、世代を超えた交流の場として、ますます発展していくことを祈念しております。



優勝した田川さん（右）と橋本支部長（左）



田川さん所蔵の３つの優勝トロフィー



表彰式の様子

2026年度全国・福岡支部合同総会
～６月22日、125名が参加して盛大に開催～

2026年６月22日（月）、福岡市内の八仙閣本店にて2026年度全国・福岡支部合同総会が開催されました。ご来賓や大学関係者、同窓生と総勢125名の方に参加していただきました。

16：30より同窓会の役員による全国理事会が開催された後、18：00より全国・福岡支部合同総会が始まりました。最初に全国総会の議案として「2026年度役員の一部改選」、「2025年度事業報告、一般会計・特別会計決算報告」、「2026年度事業計画・予算」が審議され、いずれも原案通りに承認されました。続いて行われた福岡支部総会では、「2025年度事業報告・決算報告」、「2026年度事業計画・予算」、「福岡支部の役員選任」の３つの議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

総会が終了した後、18：30より特別講演会が開催され、九州大学名誉教授の丑山優先生をお招きして、「経済学部同窓会50年小史と私の研究活動、エピソードを添えて」をテーマにお話を頂きました。

丑山先生は、同窓会活動に大変熱心に関わってこられ、特に1984年に法文学部創立60周年事業を実施する際に、寄付の目標３億円を実現するため、多くの企業を訪問して寄付を要請した経験があり、その時の苦労話を紹介されました。その寄付依頼がきっかけとなり、国立大学で初めて民間からの寄付講座の開設につながったそうです。また、ご自身の研究活動については、1994年にフィリピンのピナツボ火山の噴火後に当時の郵政省からの依頼で先住民族の支援に参加したこと。外務省からキルギスタンへ派遣され大統領と会談したことなど、当時を思い出しながら語られました。参加者は興味深く丑山先生のお話に耳を傾けるとともに、先生が同窓会に多大な貢献をされたことに感銘を受けた様子でした。

そして19：30から懇親会が始まりました。道永幸典同窓会長の開会挨拶の後、武内謙治九州大学法学部長に来賓挨拶を頂き、大西俊郎経済学部長が乾杯の音頭をとり、懇親会はスタートしました。

昭和41年卒の先輩から今年卒業したばかりの若手と実に60歳の年齢の開きがある同窓生ですが、大いに盛り上がり、交流を深めていただきました。

懇親会の半ばでは、本日参加いただいた教員の皆様を紹介するとともに、遠路はるばるお越しいただいた東京支部・関西支部そして福岡支部の幹部の皆様に登壇していただき、各支部の代表者から挨拶を頂きました。そして、九州大学応援歌・学生歌「松原に」を皆で合唱し、橋本上福岡支部長が閉会の挨拶と博多手一本を入れ、懇親会は盛況裡に終了することができました。

最後になりますが、同窓会役員の皆様、九州大学経済学部関係者の皆様、全ての同窓生の皆様のご支援を賜り、なかでも西部ガスグループの同窓生の皆様には幹事役として司会や会場受付を担当していただき、滞りなく合同総会を実施することができました。本紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

【文責：福岡支部事務局長】



懇親会で挨拶をされる橋本支部長と会場の様子

福岡支部総会講演録「経済学部同窓会の歩みと私の研究活動」

九州大学名誉教授　丑山　優

本日は、前半で経済学部同窓会の歩みについて、後半で私自身の研究活動と海外での経験についてお話ししたいと思います。

１．経済学部同窓会の歩み

経済学部同窓会は、昭和50年（1975年）10月４日に設立されました。当時、大学全体の同窓組織の充実が求められるなか、多くの卒業生の協力によって発足しました。設立後は定期的な役員会や総会を開催し、卒業生相互の親睦と大学への支援活動を進めてきました。創立25周年、さらに50周年という節目を迎えるまでには、多くの先輩方や関係者の尽力がありました。毎年の行事や懇親会を通じて同窓生の交流を深めるとともに、大学との連携を強化してきたことが今日の発展につながっています。また、法学部創立60周年事業への協力も重要な取り組みの一つでした。学部の歴史を振り返りながら、卒業生が大学の発展にどのように貢献できるかを考える機会となりました。

２．寄附講座と基金事業

同窓会活動のなかでも特に大きな事業となったのが寄附講座の設立です。当時、大学を取り巻く環境が大きく変化するなかで、卒業生の力によって教育・研究活動を支援しようという機運が高まりました。企業経営者やOB・OGを中心に募金活動が展開され、多くの賛同を得ることができました。その結果、数億円規模の基金を集めることができ、寄附講座の設置や教育研究支援のための財源を確保することができました。多数の企業や卒業生が協力し、大学と社会を結ぶ新しい取り組みとして高く評価されました。さらに、永久会員制度の導入や基金の運用などを通じて、同窓会活動の安定的な基盤づくりも進められました。こうした事業は単なる資金集めではなく、卒業生が母校の将来を支える意思表示でもあったと考えています。

３．旧東ドイツ研究との出会い

ここからは私自身の研究活動についてお話しします。私の専門は旧東ドイツを中心とした社会主義経済の研究です。1960年代から70年代にかけて、東西冷戦のなかで東ドイツ経済がどのような仕組みで運営されているのかに強い関心を持ちました。当時の西ドイツの経済紙や研究資料を読みながら、「国有財産（Volkseigentum）」と「私有財産（Privateigentum）」の違いに着目し、社会主義経済の特徴を分析してきました。研究を進めるなかで、制度や統計だけでは理解できない現実があることも知りました。経済制度は人々の生活や価値観と密接に結びついており、数字だけでは把握できない側面が数多く存在していたのです。

４．フィリピンでの経験

1991年にはフィリピンで調査研究を行う機会を得ました。現地では農村地域や都市周辺部を訪問し、人々の暮らしや地域開発の実態を調査しました。急速な経済成長の一方で、貧困や地域格差といった問題も深刻であり、経済発展の成果がすべての人々に均等に行き渡っているわけではないことを実感しました。また、NGOの活動にも触れ、行政だけでなく市民社会の役割の重要性について学ぶことができました。現場での経験は、それまで文献中心だった私の研究視野を大きく広げることになりました。

５．市場経済化への移行研究

1989年のベルリンの壁崩壊、そして1990年のドイツ統一は、私の研究人生にとって大きな転機となりました。旧東ドイツでは市場経済への移行が急速に進められ、その中心的な役割を担ったのがトロイハント（Treuhandanstalt：THA）でした。私はこの機関の活動を追跡しながら、国有企業の民営化や再編の実態について研究を続けました。統一後の経済改革は決して順調なものではなく、多くの企業が閉鎖され、失業問題も発生しました。しかし一方で、新しい産業構造への転換も進みました。こうした変化は、経済制度改革が社会全体に与える影響を考える上で非常に重要な研究対象となりました。

６．おわりに

振り返ってみると、同窓会活動も研究活動も、多くの人との出会いによって支えられてきました。同窓会では卒業生の力を結集して大学の発展に貢献することができました。また研究の面では、旧東ドイツ、フィリピン、そして市場経済化の現場を実際に

訪れることで、机上の理論だけでは得られない貴重な経験を積むことができました。これからも大学と同窓会が連携しながら発展を続け、次の世代へとその成果が受け継がれていくことを願っています。

以上で私の話を終わります。ご清聴ありがとうございました。



福岡支部総会にて丑山ゼミ卒業生との記念写真

東京支部七夕総会講演録「酒税とビールマーケティング」



昭和61年経済学部経営学科卒
野瀬裕之氏

2026年７月７日（火）、恒例の経済学部同窓会東京支部の七夕総会が開催されました。今般、基調講演の機会を得て、「ビール業界におけるマーケティング」に関わる話をさせていただきました。サッポロビール社に長年勤めていたこともあり、少々宣伝も入りますが、その点は何卒ご容赦ください。

１）サッポロビールの生い立ち

「サッポロビール」は、北海道開拓政策の一環として1876年に札幌で誕生した日本初の本格ビール醸造所（開拓使麦酒醸造所）を起源とし、日本人による国産ビールを確立。その後の民営化と渋沢栄一らの参入を経て「札幌麦酒会社」として発展していきます。

また、「エビスビール」は「日本麦酒醸造会社」が1890年に発売した「恵比寿ビール」が源流であり、ドイツ本場の技術を導入した“日本初の本格プレミアムビール”として誕生したブランドです。つまり、サッポロビールは、「札幌（開拓使）」と「恵比寿（エビス）」という二つの源流が合流してできたブランドと言えます。その工場の跡地は、サッポロガーデンパーク、恵比寿ガーデンプレイスといった施設に生まれ変わり、創業150年を迎えた本年も、多くのお客様にお越しいただいています。

２）酒税の歴史

さて、お酒には「酒税」という国税がかかります。現在の酒税は国の歳入における割合が1.5％程度に

過ぎませんが、過去は酒税が国の財源として高い割合を占めている時期がありました。酒税は明治期に近代国家を支える財源として誕生し、明治30年代には酒税が税収のトップとなり（明治34年に麦酒税導入）、日清・日露戦争の戦費調達に大きく貢献します。明治末～昭和初期の国税収入に占める酒税割合は20～30％超の時期もありました。第２次世界大戦後も、戦後の財政再建の一環としてビール税は非常に高く設定され、国税収入の大きな柱になっていました。1950年頃でも、酒税は国税収入の約18.5％を占めていましたが、その後、経済成長により所得税・法人税が増加、更には平成元年に消費税が導入されると、酒税の比率は低下し、1960年代：国税収入の10％台、1980年代:３～４％、2020年代:約２％となります。令和８年の国の一般会計税収に占める割合（予算ベース）では、消費税が26.7％、所得税が25.3％、法人税が20.7％となっており、酒税は前述の通り1.5％程度にしか過ぎません。つまり、酒税は日本の近代財政を支えた最重要税目として誕生し、戦費調達・財政安定・産業管理・社会規制という多層の役割を担いながら、現在は“政策目的中心の税”へと変化したとも言えます。

一方で、その酒税の中で２/３を占めるビール類（ビール、発泡酒）の税について考えてみます。 高度経済成長期（1960年代～1970年代）には、ビール消費量の増加により、ビール税は引き続き税収確保の観点から税率を維持されていきます。1975～1985年（昭和50年代）には、ビール税が４回増税されるなど「税率の高止まり」状態のまま。諸外国と比較をすると2025年時点でも、商品の価格に占める酒税負担額は、ドイツの約10倍、アメリカの約４倍、フランスの約２倍（ビール酒造組合調べ）となっています。業界としては、長年ビール税の減税活動を実施しますが実らず、この「ビールは高い」という構造が、その後の30年の業界の動きを決定づけ、現在税収に占める約1.5％にすぎない酒税をめぐり、今日に至るまで、酒類（ビール）メーカーの競争が激しくなる一因となっていきました。

３）国内ビール類の開発競争

1990年代、バブル崩壊による景気低迷、安価な輸入ビールの登場、酒の宅配→テイクアウトという流通の変化などがあり、消費者自体が安いビールを期待する中、麦芽使用比率を下げることで税率の低さに着目した「発泡酒」が誕生します（サントリー社/ホップス）。

その後2003年に発泡酒が増税され、更に酒税が低い新ジャンル（第三のビール）が発売されます（サッポロ社/ドラフトワン）。この低価格のジャンルは飛躍的に拡大し、家庭用のビール類の中心へと成長していきます。こういった流れの中で、2017年には酒税法が抜本的に改定され、ビール・発泡酒・新ジャンルの税率を2026年10月までに一本化することとなりました。その理由としては、「類似する酒類間の税率格差が商品開発をゆがめている」、「税負担の公平性を回復するため」（財務省資料）というものでしたが、ビールとの価格差が縮まることにより、30年にわたるビール類の低価格化競争の終焉でもありました。発泡酒・新ジャンルは「税率が低いから安い」という「存在意義」から新たな価値を模索することになります。ただし、発泡酒、新ジャンルでの競争に明け暮れていた環境は大きく様変わりし、各社ともビールの本質的な価値を見つめ直す好機とも捉えています。

４）これから

サッポロビールも「100年ブランド」のサッポロ、エビスといった基幹ブランドを中心に、機能的、情緒的なアプローチだけではなく、今一度選ばれるブランドづくり、圧倒的な「感動体験」を提供する試みを行っています。ビールの「個性」と「物語」がサッポロビールのビール競争軸。ビールのプレミアム化・魅力化を促進していく考えです。時代とともにお酒に求める価値は変化します。銀座にある「黒ラベルThe BAR」、同じく恵比寿の「YEBISU BREWERY TOKYO」札幌の「サッポロビール博物館」、「サッポロビール園」などに足をお運びいただければ、ビールの歴史と現在地点、そしてこれから姿を体感していただけることと思いますし、おいしいビールがお待ちしています。丸くなるな、星になれ。感謝。

追　悼　逢坂充先生を偲んで

88年卒逢坂ゼミ生を代表して



進　研一氏
1988(昭和63)年卒

我が恩師逢坂充先生のご逝去の報に接し、心よりお悔やみ申し上げます。

これまであれほどお元気でいらっしゃったのに、信じられない気持ちでいっぱいでございます。

私は、九州大学経済学部を昭和六十三年に卒業いたしましたが、在学中は逢坂先生のゼミナールで大変お世話になりました。

思い起こせば、ゼミの選択の際は先生のゼミへの希望者が殺到し、先生のご発案で２グループに分けられて、それぞれの代表者がじゃんけんをし、勝ったグループが残るということにされましたが、私のグループは代表の山口さんが勝っていただけたおかげで、私を含めた14名の参加が叶いました。先生はそのことが大変印象深かったのか、それ以降我々のことを愛情を込めて「じゃんけん組」と呼んでいただきました。

ゼミでの活動では、ゼミ生全員で萩に出向いてのゼミ合宿をはじめとした勉強会のみならず、先生のご自宅に集合してのマラソン大会・懇親会なども開催していただくなど、常にゼミ生間の融和にお気遣いいただき、温かく見守っていただけたと感じていました。

また、我々の卒業時には、五年に一度先生をお招きしての昭和六十三年卒生による同窓会の開催をゼミ生全員で誓い合いました。その際には、あみだくじで同窓会の永久幹事を決定することとなりましたが、なんと見事に私が引き当てたのです。私は地元福岡に就職予定であったこともあり、ゼミ選択時のじゃんけんに引き続きこれも私の運命かと、幹事役をしっかりやり遂げる決意をしました。実際に、先生や同期のご協力のおかげで、途中、コロナウィルスの蔓延時にやむなく中止した以外は、これまで途切れることなく継続することができています。

同窓会で心に残るのは、同期の森さんの熊本市赴任時に先生のご発案で熊本市にて開催し、森さんの取り計らいで熊本名物に舌鼓を打ちました。また、約三年前のコロナ明けには、これも先生のご発案により新九大伊都キャンパスを視察しました。その際



令和８年６月同窓会（スマホの画面に逢坂先生が…）



逢坂先生ご自宅マラソン・懇親会



令和５年11月同窓会　逢坂先生の卒寿の祝を兼ねる

は、先生もお元気に参加され、同キャンパス内の図書館で何冊もの本をお借りになられていたのが大変印象的でした。また､その夜の懇親会では卒寿(九十歳）を迎えになられた先生のお祝いを兼ねての懇親会を開催し、先生からは還暦目前の我々に対する今後の人生に向けての激励をいただけました。

直近では、今年（令和八年）の６月27日に同期12名（福岡から烏田さん・山中さん・渡邊さん・進、北九州から重枝さん、大分から甲斐さん、対馬から森さん、大阪から一ノ瀬さん、東京から桂木さん・森重さん・山口さん、ジャカルタから三木さん）が集合して同窓会を開催しました。当初先生はご出席のご意向でしたが、その後体調不良が発覚されたことから、残念ながら先生のご同席は叶いませんでした。そこで、山口さんがスマホによるリモート面会を実施していただき、先生と出席者一人ひとりとの近況報告が実現するなど、大変貴重で有意義な時間が持てました。

また、同窓会ごとに先生が色紙をご用意いただき、全員での寄せ書きが残せたのもとても素晴らしい思い出です。

これまでの逢坂先生の我々に対するお気遣いに深く感謝するばかりでございます。

それからしばらくたった７月11日に突然先生よりお電話がありました。内容は､「体調が急変し、もう長くないようだ。あなたたちとは一番長く、深くお付き合いしてきた。先日のリモート同窓会も楽しかった。最後にお礼が言いたかった。本当にありがとう。同期のみなさんにもよろしく伝えてほしい」との予想もしなかったお話でした。あまりに突然のお話に私は驚き、思わず涙ぐんでしまいました。

その後、７月14日に再度お電話があり､「進君に私の葬儀で弔辞を読んでほしい。その中では、じゃんけん組の話や色紙の話など、これまでの印象的なエピソードを披露してほしい」とのご依頼をいただきました。私も60年以上生きてきて弔辞を依頼されるのは初めてのことでしたが、逢坂先生からのたってのご希望でしたので快くお受けしました。

一方で、先生は少し弱々しいお声ではありましたが、これだけはっきりと話されていらっしゃることから、私は内心では最悪の事態はまだまだ先ではないかと思っていましたが、その願いもむなしく、誠に残念ながら先生は令和８年７月20日にお亡くなりになられました。

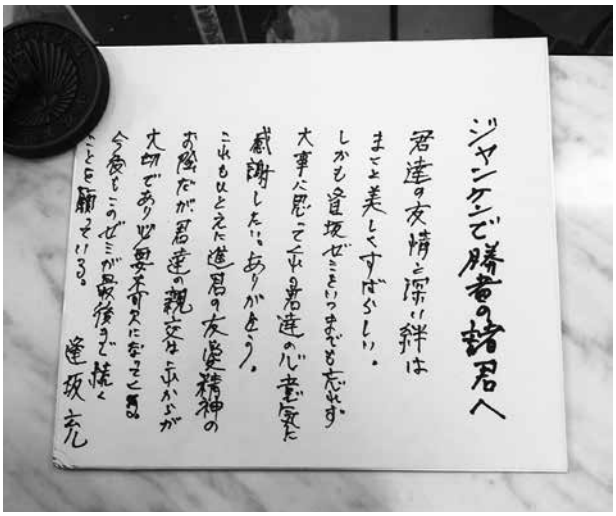
お通夜での僧侶からのお話の中では、先生は今年の２月頃にお仏壇を用意され、僧侶に対してお経のご依頼があったとのことでした。そのお話を伺い、これまでの我々に対する最後の感謝のご連絡や、私への弔辞のご依頼なども含めて、着々と終活をなされていたことがお察しでき、先生は人生の最後の最後まで全力を尽くして生き抜かれたのではないかという思いを強くしました。

これからは先生の笑顔と穏やかなお声を伺えないと思うと、胸が締め付けられます。

逢坂先生、これまで本当にありがとうございます。先生から受け取った言葉と志をこれからの人生で大切に生きていきます。どうか安らかにお眠りください。



逢坂先生遺影



逢坂先生からじゃんけん組への激励色紙

追　悼　川端久夫先生を偲んで

九州大学名誉教授
塩次喜代明氏



伊都キャンパスホームカミングディにて
川端久夫先生（左）塩次喜代明先生（右）

川端先生は令和８年８月８日に97歳のご長寿を全うされ、ご家族の見守る中で永遠の旅立ちをされました。ご葬儀は翌日しめやかにおこなわれました。

川端先生は山口県厚狭のお生まれになり、旧藩校の県立山口高校から九州大学経済学部に入学されました。在職中は経済学部長を務められ、学部の発展に貢献をされています。

生粋の長州人であり、頑固で強い意志、モノの本質を見抜く鋭い洞察力、質実を重視する生活スタイルなどの性格や生き方に長州人気質はよく表れていました。大学でお会いするときは、先生はいつも薄い色の目立たないスーツを着用しており、ご自宅でもそれはあまり変わらないようでした。私共は、先生は寝る時もきっとネクタイを締めたスーツスタイルに違いないなどと親しみを込めて、その質実ぶりに冗談をとばしていました。

小さな声で本質だけを語るのですから、学生は講義をどのように受け止めていたのでしょうか。ポピュリズムに染まったZ世代はきっと経営学は難解でつまらないと思ったことでしょう。

先生は学部卒業後、助手に採用され、その後大阪社会事業短期大学講師に転出されて助教授まで勤めました。九大には助教授として戻って来られました。大阪では労務問題に関心を深めていました。労働に目を向けるのは、当時の九大経済学部の特徴かもしれません。副田満輝先生から原田實先生へとつながる労務管理論の流れがあり、同門の下川浩一法政大学名誉教授などは筑豊の炭鉱にもぐって労働の実態を観察しています。川端先生の労働への関心は、ヒトをつなぎ動かす労働組織の解明に研究を深めることになります。

先生が注目したのはチェスター・バーナードでした。ベル電信電話会社の社長であったバーナードは『経営者の役割』を著しています。本のストーリーは平易ですが、独特の概念と概念をつなぐロジックは複雑で難解なものです。しかし、彼はついぞマルクスが取り上げることのなかった会社を動かす経営組織のダイナミズムを語っているのです。彼に魅かれた研究者をバーナーディアンと呼び、わが国ではバーナード協会なる学会すら生まれています。川端先生の深い読み込みと透徹した解釈は新鮮で正鵠を射るものでした。たちまちにして九大に川端ありの声名を高めていったのです。

経営組織を動かし、経済的成果をあげる経営者の活動についての実証研究は当時は殆どありませんでした。川端先生はこの穴を埋めるべく、ヘンリー・ミンツバーグに注目し、カナダのモントリオールに出かけてミンツバーグと意見交換をして、研究の枠組みを確立しています。続いて注目したのは、欧州のC. ヘイズでした。ヘイズをめぐっては、退官後に教鞭をとられた熊本学園大学で研究を深めてゆきます。紀要に寄せた論文を統合して『管理者活動研究史論』2001年が上梓され、経済学博士を授与されています。さらに晩年は、バーナーディアン川端の集大成『日本におけるバーナード理論研究』2015年を上梓されています。

左派系の経営学を批判経営学といいます。クリティカル・アプローチを特色にする九大では殊のほかマルクスに基づく訓詁学的研究が盛んです。中国の留学生がマルクス経済学は知らないという時代にあって、九大の個別資本説は驚きの目でみられています。しかし、バーナーディアンはこれと立場を異にします。経済を動かす企業の本質を経営組織と捉え、イデオロギーに囚われない研究を展開するのです。イデオロギーに囚われない視座を矜持する、それが川端経営学であったと思います。

現代に息づく長州気質の経営学者の逝去を心から悼みたいものです。

特別寄稿

津守常弘先生とゼミ門下生たち ～96歳お誕生会ならびに受賞お祝い会 開催



PwC Japan有限責任監査法人
田邊　晴康氏
1993年（平成５年）卒業

2026年２月15日、我らが師匠である津守常弘先生の96歳お誕生会、ならびに、日本会計研究学会学術褒賞受賞のお祝い会が、ソラリア西鉄ホテル福岡にて開催されました。津守先生は、1930年２月10日生まれの96歳。1962年～1970年まで立命館大学、1970年10月から1993年３月まで23年間九州大学経済学部の教授として教鞭をとられ、その後も神奈川大学、九州情報大学、保健医療大学で、2022年３月92歳までの間、約60年にわたって教鞭をとられておりました。九州大学時代の23年間においては約110人のゼミ門下生が卒業しており、教鞭をとられた60年間においては世代を超え、昭和、平成、令和時代を跨いで、数えきれないほどの門下生が社会で活躍しております。

私は、津守ゼミの最終年度の第22期のゼミ生で、1991年４月から1993年３月までの２年間「財務会計論」を学びました。私が津守ゼミに入ったのは、当時から何となく目指していた公認会計士の試験に何となく役立ちそうだな～、という実務的な動機に加え、津守先生に初めてお会いしたときに、ちょっと厳しい雰囲気は出していらっしゃったものの、温和で気さくな雰囲気も漂っていて、楽しく２年間勉強できるのではないかというインスピレーションも働きゼミ選択を即決したことを今でも覚えております。22期生はゼミ史上最多の11人の会計好きが集まったゼミとなり、公認会計士も４人の合格者を輩出した学年でもあります。久住合宿、萩合宿などを通じて楽しく活動していたのですが、一つ上の先輩方（第21期生）がいなかったので、本当は先輩方がやるはずだったタスクも含め自分たちの代が主軸として動くことができ、自由気ままに活動ができお得感を感じながらの２年間でした。とはいえ、ゼミの内容が「概念的フレームワーク」とか「財務会計基準審議会（FASB）の枠組」など当時は私にとっては見たことも聞いたこともない未知の領域、かつ、考えても考えてもわからない領域の話で、正直何をやっているのかさっぱり理解できておらず、よくわからない世界をさまよった２年間でもありました。それでもその中で、付け焼刃の本で読んだばかりの浅い知識を振りかざし、「自分はこう考える」とか「この考え方は賛同できる、できない」ということをディスカッションし、卒業研究や研究発表会などのプロジェクトを進めるという経験ができたことは、その後の私の人生に大きく生きた経験となりました。津守先生からは「本当にそれでよいのか？」という正解なのか不正解なのかわからない問いかけを何度もいただきながら軌道修正し、当時大学院生であった大石さん、北山さんから様々なヒントとアドバイスをもらいながら、なんとか前に進めていった、そういう記憶がよみがえります。

その後、私は公認会計士となり、会計ビッグバンやIFRS（国際財務報告基準）コンバージェンスなどによって会計基準も様変わりする渦中の渦の中で仕事しており、実務と繋がってみるとゼミ時代に勉強していたことの意味や意義を少しずつ理解できるようになりました。同時に当時としては大変先進的なことを議論していたこと（しかも会計基準自体がほとんどなかったあの1990年代に・・・）を再認識するとともに、そこから20年～30年経っても、なお色褪せることなく実務に浸透し、今でも議論が活性化、進化し続けていることに、今更ながら学問の面白さと奥深さを感じているところです。

さて、津守先生は2022年３月に九州情報大学を退職され、大学教授としての第一線からは引退されたとこのことでしたが、学問への探求には引退の文字はなく、企業会計2024年10月号においては『「財務情報公開論」研究の一視角』というテーマにて特別寄稿を寄稿されており、財務情報公開制度の構造変化や会計基準に対する問題提起をされています。読んでみると私にとってはあらためて難しい内容でもあり、論文執筆の最年長記録というのがあるのかどうかはわかりませんが、94歳での専門書への論文寄稿はレジェンドな出来事です。

また、2025年９月には日本会計研究学会より、長年に渡る研究活動、教育活動、学会活動の功績と貢献が認められ、日本会計研究学会学術褒賞を受賞さ

れております。

このような喜ばしいニュースが飛び込む中、2025年末の九州大学経済学部同窓会の忘年会にて、「津守先生、学術褒賞受賞されたらしいですね～」「津守先生お元気ですかね～」「お会いしたいですね～」という話が盛り上がり、19期生の原園さん、20期生の宮本さん、７期生の徳賀さんのゼミご出身で九州大学経済学研究院の潮﨑さんが企画メンバーとなり、津守先生のお祝い会を開催することとなりました。2018年２月に津守先生の米寿のお祝い会で一度集まっていますので、同窓会（懇親会）としては８年ぶりの開催となり、今回は26名が参加いたしました。

私は先生とは８年ぶりの再会で、「96歳ともなると歩くの大丈夫だろうか」とか、「長時間のご参加大丈夫だろうか」とか、個人的には色々と心配の中、11時15分津守先生ご到着。トレードマークのソフトハットを纏い、当時と変わらぬダンディな御姿で、「そんな心配はご無用」とばかりに、歩くご様子もスピードもゼミ時代の登山で鍛えた足腰はご健在で衰える様子もなく、颯爽とご登場されました。また、声の張りも握手する握力も当時と変わらぬ強さがみなぎっており、元気すぎる96歳の師匠の姿に、ゼミ生一同あらためて驚愕しておりました。

懇親会では、参加している皆さんの近況や当時の思い出を語る場となり、ゼミで活動していた22歳頃の当時の写真をプロジェクター投影して振り返りながら、昭和・平成の青春時代の思い出話に花を咲かせました。また、今回残念ながら参加できなかった方は、ビデオレターやメッセージの形でご参加いただき、津守先生への感謝を一言申し上げたいというゼミ生一同の思いが溢れた会となりました。津守ゼミの思い出としては、アカデミックなお話で当時を振り返る（ことのできる）方､そのようなアカデミックな話に全くついていけず、登山や合宿等のイベントの楽しさだけが残っている方（←私）など様々でした。その中でも、このゼミで学んだこと、活発に議論したこと、プロジェクトを完遂できたことなど、このゼミで打ち込んだ２年間という時間は、その後の人生に色々な影響を与えて今日を迎えており、そして、何よりもみんなゼミが好きだったんだな～ということがよくわかる会でした。

津守先生からは、「これから先、どれほどの時間があるかはわからないけれども、これまで関わった論文や執筆をあらためて見直しながら、学問を続けていきたい」という力強いお言葉がありました。津守先生の学問に対する姿勢への凄さをあらためて感じるとともに、いつまでも変わらない先生のご健



在っぷりに、まだまだ私たちも（いい歳になってはおりますが）衰えを感じてる場合じゃないとゼミ生一同が先生からパワーをいただいたような会となりました。

次回は４年後、津守先生の「百寿」をお迎えした会を開催することになります。先生はまだまだお元気でしょうし、その間にまた１、２本執筆してギネス？（自己記録？）を更新しているかもしれません。その時ゼミ生は全員還暦を超えるという高齢化した同窓会にはなりますが、全員元気にその日に再会できるのを楽しみにしております。

末筆ではありますが、今回のこのような会を企画いただきました原園さん、宮本さん、潮﨑さんにあらためて感謝の意を申し上げますとともに、津守先生、ゼミ門下生の皆様の変わらぬご健勝を願いながら、今回のお祝い会の報告とさせていただきます。



津守常弘先生、日本会計研究学会学術褒賞を受賞
― 栄えある第１回受賞者に ―



九州大学経済学研究院　教授
大石　桂一氏
平成２年卒業

本学名誉教授の津守常弘先生が、日本会計研究学会の2025年度「学術褒賞」を受賞されました。誠におめでとうございます。

この日本会計研究学会学術褒賞は、「次世代の会計学の向上発展に資するため、会計学の研究および教育ならびに本会の運営に顕著な功績があった個人を顕彰すること」を目的として2025年度に創設されたものです。津守先生は、その栄えある第１回目の受賞者となられました。

日本会計研究学会は、わが国の会計学研究を代表する学術団体です。その学会が新たに設けた褒賞の最初の受賞者として津守先生が選ばれたことは、先生が長年にわたって積み重ねてこられた研究、教育、そして学会への貢献が、日本の会計学の発展そのものに深く関わるものであったことを示しています。

津守先生のご研究を一言で表すことは不可能ですが、その大きな特色は、会計を単なる企業内部の計算技術として捉えるのではなく、社会のなかに組み込まれた「制度」として捉えたことにあります。企業が利益や資産をどのように計算するかという問題は、一見すると技術的な問題に見えます。しかし、なぜその計算方法が選ばれるのか、誰がそのルールを決めるのか、その情報は誰に向けて、何のために公開されるのか、と考えていけば、会計を通じて企業を社会の中でどのように統制するかという問題につながっていきます。

津守先生は、企業会計制度を「公開制度」として位置づけ、企業会計が社会的統制の一手段として、より広いディスクロージャー制度のなかに組み込まれていることを明らかにされました。そして、公開とは単なる情報伝達ではなく、その情報を受け取る人々を社会的な意思決定主体として形成していく働きをもつという、独自の視点を提示されました。これは、会計を社会的統制の制度装置として理論的に再構成し、その制度的構造面と計算構造面とを統一的に把握しようとする試みであり、会計研究に新たな視野をもたらしました。

また、津守先生はアメリカの会計制度を「公開制度」「私的統制」「GAAP（一般に認められた会計原則）」という３つの層から捉え、それらが歴史的、社会的な状況の中でどのように形成され、相互に関係してきたのかを詳細に分析されました。とりわけ注目すべきは、会計基準を単純に「企業を規制する

ルール」として捉えなかったことです。GAAPは企業行動を規制する一方で、複数の会計処理の選択肢や一定の弾力性をもっています。そのため企業は、会計基準に従いながら、自らに有利な会計処理を選択することもできます。津守先生は、こうした会計制度の性格を「規制」だけでなく、「規制回避」、さらには「規制利用」という視点から分析されました。1970年代という早い時期から制度と企業とのこうした複雑な関係を捉えていたことには、今日から振り返っても大きな先見性があります。

現在では、会計基準を誰がどのような手続きで作るべきか、企業や投資家その他の利害関係者が基準設定にどのような影響を与えるのか、会計規制が企業行動をどのように変えるのかといった問題は、世界的にも重要な研究テーマとなっています。津守先生のご研究は、そうした今日の会計規制研究につながる問題を早くから提示していました。このように、津守先生の学術的貢献は、会計制度の本質に関する理解を深めただけでなく、社会科学としての会計学の基礎を築くものであり、その意義は今日ますます高まっています。

先生の功績は研究だけにとどまりません。1962年から2022年まで、立命館大学、九州大学、神奈川大学、九州情報大学で約60年間にわたり教鞭をとられ、92歳まで教育の第一線に立ち続けられました。その間、徳賀芳弘先生（京都先端科学大学副学長・京都大学名誉教授）や戸田龍介先生（神奈川大学学長）をはじめ、多くの会計学研究者を育成し、日本の会計学界に人材を送り出してこられました。

また1977年には、津守先生の主導により「九州会計研究会」が発足しました。この研究会はその後も受け継がれ、現在まで約50年間、毎月開催されています。さらに、1978年に同研究会の夏合宿として始まった活動は、現在の「会計学サマーセミナー in 九州」へと発展し、全国の研究者が集う研究交流と若手研究者育成の場となっています。研究成果を残すだけでなく、研究者が互いに議論し、次の世代を育てる「場」を作られたことも、津守先生の大きな功績です。

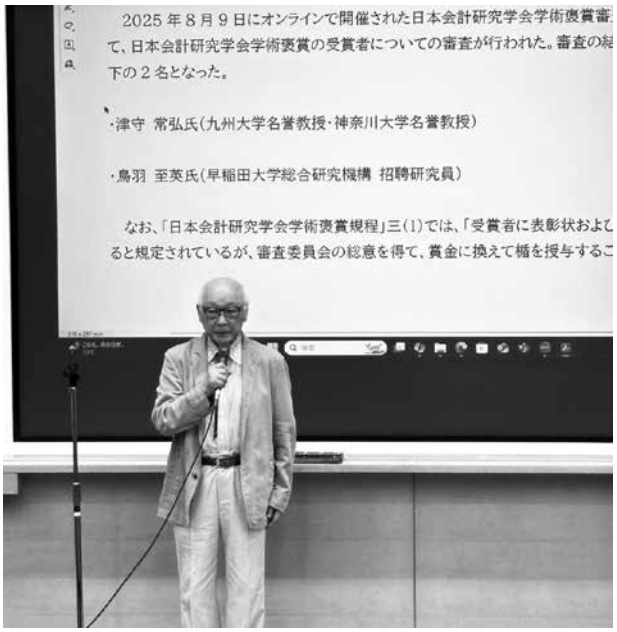
津守先生は、日本会計研究学会において、1962年の入会以来60年以上にわたり、理事、評議員、学会賞・太田賞審査委員などを歴任し、学会の発展に尽力されました。1988年には学会賞も受賞されています。さらに、日本会計史学会会長、会計理論学会会長なども歴任されています。

そして何より驚くべきことは、津守先生が96歳になられた今もなお研究を続けておられることです。2024年10月には、94歳で「『財務情報公開論』研究の一視角」と題する論文を『企業会計』誌に発表されました。衰えることのない津守先生の学問への情熱に、私はいつも励まされます。研究とは、既存の知識を身につけることではなく、社会の現実を観察し、その背後にある仕組みを問い続ける営みである―津守先生の研究人生そのものが、そのことを体現しているように思います。

研究、教育、そして学問共同体の形成。そのすべてを通じて日本の会計学の発展に貢献された津守先生が、新たに創設された日本会計研究学会学術褒賞の第１回受賞者となられたことは、誠に意義深いことです。

津守先生のご受賞を、同窓生の皆様とともに心よりお祝い申し上げます。そして、先生がこれからもお元気で、私たち後進に学問することの厳しさと楽しさを示し続けてくださることを願っております。





九州大学経済学部　国際学術交流振興基金執行状況報告（2025年度）

2025年４月より国際交流委員長を仰せつかっております加河茂美（かがわ しげみ）と申します。

同窓会の会員の皆様におかれましては、平素より経済学研究院・経済学府・経済学部の教育・研究活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。このたび、2025年度の国際学術交流振興基金の執行状況について、ご報告申し上げます。

2025年度は、国際交流活動を円滑かつ有意義に進めるため、海外協定校等からの訪問団への対応や、国際的な学術交流の場における活動に対して、同基金を活用いたしました。

具体的には、UQ Collegeからの訪問団および国立政治大学からの訪問団の来訪に際し、両大学との交流を深めるための記念品を購入いたしました。また、九州大学・中国人民大学・南京大学の３大学による歴史あるジョイントカンファレンスの開催に際しては、報告書の作成および記念品の購入に同基金を活用いたしました。

さらに、台湾国立政治大学とのジョイントワークショップに出席した経済学研究院の阿部貴晃准教授および堀井伸浩准教授に対して、海外での学術交流を支援するため、旅費の一部を同基金から支援いたしました。

このように、同基金は、協定校等との交流を促進するとともに、教員の国際的な研究交流を支援するために活用しております。これらの活動を通じて、海外の大学・研究機関との関係をさらに深め、本研究院の国際化を一層推進していくことが重要であると考えております。

一方で、限られた国際学術交流振興基金を将来にわたって有効に活用し、その持続可能性を確保しながら、経済学研究院・経済学府・経済学部の国際交流をいかに活性化していくかは、今後の重要な課題であると認識しております。国際交流委員長として、この課題に取り組むべく、関係の先生方と引き続き検討を重ね、限られた資金を最大限に活用しながら、国際学術交流のさらなる発展に努めてまいりたいと存じます。

なお、国際学術交流振興基金とは別に、大西研究院長のリーダーシップのもと、経済学研究院基金を創設いたしました。同基金は、本研究院の教育・研究活動のさらなる充実を図るための基金であり、国際交流の推進にもつながるものと考えております。経済学研究院基金の詳細につきましては、以下のウェブサイトをご覧ください。

九州大学「経済学研究院基金」 （詳しくは27ページを参照）

同窓会の皆様にも、ぜひご理解を賜りたく、情報を共有させていただきました。今後とも、経済学研究院・経済学府・経済学部の国際交流活動に対し、温かいご理解とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

国際学術交流振興基金による活動状況報告（令和７年度）

申請者	内　容	期　間
【　海外派遣　】		
儲　　梅芬（講師）	台湾国立政治大学とのジョイントワークショップに出席した経済学研究院の阿部貴晃准教授および堀井伸浩准教授に対し、旅費を支援した。	7.9.29～7.10.1

申請者	内　容	期　間
【　国際交流に伴う物件費　】		
儲　　梅芬（講師）	※記念品作成費等 UQ Collegeからの訪問団への記念品を購入した。	7.6.3
儲　　梅芬（講師）	※記念品作成費等 国立政治大学から訪問団への記念品を購入した。	7.7.11
儲　　梅芬（講師）	※記念品作成費等 ３大学ジョイントカンファレンス（九州大学・中国人民大学・南京大学）の報告書を作成するとともに、記念品を購入した。	7.9.27

令和７年度卒業生就職状況　（掲載不同意者除く）

令和８年３月31日現在

学部	
就職先	人数
株式会社福岡銀行	8
九州電力株式会社	5
株式会社西日本シティ銀行	6
デロイトトーマツコンサルティング合同会社	3
東京海上日動火災保険株式会社	3
福岡県庁	3
株式会社みずほ銀行	4
明治安田生命保険相互会社	3
第一生命保険株式会社	2
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社	5
レバレジーズ株式会社	3
アクセンチュア株式会社	3
伊藤忠商事株式会社	2
株式会社オービック	4
野村證券株式会社	2
株式会社三井住友銀行	4
株式会社三菱ＵＦＪ銀行	3
福岡市役所	2
住友林業株式会社	1
阪和興業株式会社	2
横浜ゴム株式会社	1
長崎市役所	1
楽天グループ株式会社	2
キヤノン株式会社	1
株式会社Leo Sophia Group	1
三菱重工業株式会社	2
株式会社ＮＴＴデータ	1
総務省	1
pwc	1
日本製鉄株式会社	1
株式会社クリーチャーズ	1
ＮＴＴ･ＴＣリース株式会社	1
株式会社サーキュレーション	1
戸田建設株式会社	1
株式会社サイバーエージェント	1

就職先	人数
ソフトバンク株式会社	1
株式会社ドリーム･アーツ	1
山田コンサルティンググループ株式会社	1
株式会社ニトリホールディングス	2
西部ガス株式会社	1
株式会社ビズリーチ	1
大日本印刷株式会社	1
株式会社ファーストリテイリング	1
KPMGコンサルティング株式会社	1
株式会社プレジィール	1
日油株式会社	1
株式会社プレックス	1
みずほ信託銀行株式会社	1
株式会社ベイカレント	3
株式会社野村総合研究所	1
株式会社マネジメントソリューションズ	1
熊本国税局	1
株式会社みずほフィナンシャルグループ	1
厚生労働省	1
ＳＭＢＣ日興証券株式会社	1
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	1
株式会社リンクソシュール	1
三菱ガス化学株式会社	1
株式会社塩浜工業	1
三菱地所株式会社	1
株式会社学情	1
住友生命保険相互会社	2
株式会社佐賀銀行	1
生和コーポレーション株式会社	1
ＹＫＫ　ＡＰ株式会社	1
全日本空輸株式会社（ＡＮＡ）	2
ＥＹストラテジー･アンド･コンサルティング株式会社	1
大成建設株式会社	1
株式会社鹿児島銀行	1
デロイトトーマツグループ合同会社	1

就職先	人数
株式会社西松屋チェーン	1
東京海上日動システムズ株式会社	1
EY新日本有限責任監査法人	2
独立行政法人統計センター	1
株式会社村田製作所	1
日本電気株式会社（ＮＥＣ）	1
株式会社内田洋行	1
パナソニック産機システムズ株式会社	1
株式会社日清製粉グループ本社	1
明治安田システム･テクノロジー株式会社	1
株式会社日本政策金融公庫	1
NECソリューションイノベータ株式会社	1
株式会社日本政策投資銀行	1
いすゞ自動車株式会社	1
合同会社デロイトトーマツ	3
大和証券株式会社	3
三井住友信託銀行株式会社	2
アビームコンサルティング株式会社	2
M&A Lead株式会社	1
PwCアドバイザリー合同会社	1
三菱地所レジデンス株式会社	1
ヒューマンアカデミー株式会社	1
ヒューリック株式会社	1
フューチャー株式会社	1
パーソルAVCテクノロジー株式会社	1
みずほ証券株式会社	1
株式会社リボルブ･シス	1
アクティベートジャパン税理士法人	1
スカイライトコンサルティング株式会社	1
遠賀信用金庫	1
パーク24株式会社	1
応研株式会社	1
清水建設株式会社	1
学校法人龍谷大学	1
株式会社ニトリ	1
株式会社ＮＴＴデータ九州	1

就　職　先	人数
株式会社ＳＨＩＦＴ	1
株式会社小松製作所	1
株式会社ＴＫＣ	1
アネーラ税理士法人	1
株式会社アミューズ	1
兼松株式会社	1
ＮＴＴ西日本株式会社	1
財務省　財務局	1
東京ガスｉネット株式会社	1
デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー合同会社	1
南あわじ市役所	1
日本食研ホールディングス株式会社	1
日本精化株式会社	1
株式会社ソニー･インタラクティブエンタテインメント	1
徳島県庁	1
株式会社クラフティア	1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1
株式会社コスモスイニシア	1
日本生命保険相互会社	1
株式会社シーユーシー	1
株式会社スタジオテンポス	1
株式会社セゾンテクノロジー	1
学部計	190

学　府	
就　職　先	人数
国立大学法人九州大学	6
東京海上日動火災保険株式会社	2
株式会社福岡銀行	3
国立大学法人和歌山大学	1
野村證券株式会社	1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1
学校法人明治大学	1
デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社	1
株式会社JTBグローバルマーケティング＆トラベル	1
ビーワイディージャパン株式会社	1
株式会社三井住友銀行	1

就　職　先	人数
福岡県庁	1
アデコ株式会社	1
学校法人福岡大学	1
九州電力株式会社	2
日本銀行	1
アクセンチュア株式会社	2
シンプレクス株式会社	1
文部科学省	1
ステート･ストリート信託銀行株式会社	1
株式会社ポケモン	1
株式会社佐賀銀行	2
九州旅客鉄道株式会社(JR九州)	2
株式会社サニックス	1
株式会社肥後銀行	1
株式会社丸北北尾商店	1
コカ･コーラボトラーズジャパン株式会社	1
新潟信用金庫	1
セイコーエプソン株式会社	1
株式会社ペルソン	1
ゼブラ株式会社	1
Ｑｓｏｌ株式会社	1
センドグループ株式会社	1
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社	1
武田薬品工業株式会社	1
トヨタ自動車株式会社	1
株式会社プロテリアル特殊鋼	1
ナイスオンホールディングス株式会社	1
株式会社伊都日本振興会	1
マイクロンメモリジャパン株式会社	1
株式会社久原本家グループ本社	1
医療法人明楽会　くまクリニック	1
株式会社西日本新聞社	1
学校法人久留米大学　久留米大学病院	1
山口産業株式会社	1
学校法人巨樹の会 令和健康科学大学	1
社会保険労務士法人プロフェス	1
株式会社Low Code	1
西日本鉄道株式会社	1
株式会社Ｍ＆Ａ総合研究所	1

就　職　先	人数
LEAN IN	1
株式会社アイキューブドシステムズ	1
学府計	64
総計	254

令和７年度決算報告

収支計算書（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（単位:円）

収入の部	予算	決算	差異
会費収入	7,000,000	6,560,400	△ 439,600
会員（卒業生）	3,000,000	2,745,400	△ 254,600
会員（在学生）	4,000,000	3,815,000	△ 185,000
負担金収入	600,000	587,000	△ 13,000
教員年間総会費	500,000	490,000	△ 10,000
卒業祝賀会会費	100,000	97,000	△ 3,000
雑収入	2,062,000	1,665,414	△ 396,586
受取利息	20,000	26,414	6,414
名簿売上	12,000	4,000	△ 8,000
広告料	30,000	0	△ 30,000
寄附金	2,000,000	1,635,000	△ 365,000
当年度収入計	9,662,000	8,812,814	△ 849,186

支出の部	予算	決算	差異
事業費	2,523,100	2,274,134	△ 248,966
会報発行費	1,850,000	1,754,833	△ 95,167
卒業祝賀会	650,000	496,201	△ 153,799
卒業記念品費	0	0	0
名簿代	23,100	23,100	0
会員加入促進費	0	0	0
運営費	5,840,000	5,202,341	△ 637,659
事務局員費	840,000	734,830	△ 105,170
会議費	30,000	44,220	14,220
通信費	1,500,000	1,432,812	△ 67,188
支払手数料	100,000	69,239	△ 30,761
旅費交通費	1,100,000	640,000	△ 460,000
消耗品費	120,000	141,240	21,240
消耗雑費	50,000	40,000	△ 10,000
支部運営費	1,850,000	1,850,000	0
全国総会運営費	250,000	250,000	0
負担金	100,000	100,000	0
支部総会会費（教員）	100,000	100,000	0
創立50周年記念事業費	1,640,800	1,597,497	△ 43,303
支払手数料	800	660	△ 140
講師料	1,000,000	983,620	△ 16,380
会場代	300,000	283,635	△ 16,365
旅費交通費	200,000	200,000	0
消耗品費	140,000	129,582	△ 10,418
当年度支出計	10,103,900	9,173,972	△ 929,928

当年度収支差額	△ 441,900	△ 361,158	80,742
前年度繰越収支差額	8,056,944	8,056,944	0
正味会費納入金から繰入	0	0	0
正味会費納入金へ繰入	0	0	0
次年度繰越収支差額	7,615,044	7,695,786	80,742

令和７年度決算報告

貸借対照表（令和８年３月31日現在）

（単位:円）

科　目	金　額	科　目	金　額
現金預金	29,800,335	前受金	1,330,000
現金	38,202		
普通預金(西日本シティ)	2,672,647	負債合計	1,330,000
普通預金（西日本シティ２）	446,294		
普通預金（福岡 ）	3,123,780		
普通預金（福岡2）	7,489,810	正味会費納入金	20,774,549
郵便貯金	1,350,614	前年度繰越高	20,774,549
郵便振替口座（通知）	2,865,045	一般会計へ繰入	0
定期預金（西日本シティ）	11,813,943	一般会計から受入	0
		次年度繰越収支差額	7,695,786
		正味財産合計	28,470,335
資　産　合　計	29,800,335	**負債･正味財産合計**	29,800,335

九州大学経済学部同窓会役員名簿（敬称略・（ ）内は卒業年　昭和：S　平成：H　令和：R）

令和８年７月現在

（同窓会本部）

役員	氏名
会長	道永　幸典(S56)
副会長	伊東信一郎(S49)　清丸　泰司(H2) 橋本　　上(S59)
事務局長	前田真一郎(H22博卒)
監事	貞刈　厚仁(S52)　宮本　義三(H3)
顧問	進谷　庸助(S35)　石橋　英治(S36) 池田　弘一(S38)　籾井　勝人(S40) 秦　　喜秋(S43)　貫　　正義(S43) 小森田憲繁(S46)

（理　事）

本部	道永幸典会長　　前田真一郎事務局長
大学	大西俊郎研究院長　岩田健治名誉教授 大石桂一教授　　大坪稔教授 池下研一郎教授　　鷲崎俊太郎准教授 潮﨑智美准教授
東京支部	伊東信一郎支部長　富井順三副支部長 野瀬裕之副支部長　青柳未央事務局長
関西支部	清丸泰司支部長　　安藤由紀副支部長 谷村信彦副支部長　凌雲翔事務局長
福岡支部	橋本上支部長　　貞刈厚仁副支部長 平井彰副支部長　　田川真司副支部長 村上英之副支部長　内村芳郎副支部長 縄田真澄事務局長

※東京支部・関西支部の理事および福岡支部の評議員は、本部評議員を兼任する。

各支部の役員

東京支部

支部長	伊東信一郎(S49)	
副支部長	富井　順三(S50)	野瀬　裕之(S61)
事務局長	青柳　未央(H18修)	
事務局次長	川原　　晃(S54)	林　　秀信(H3)
	竹之下一也(H24)	
監事	中楯　　潔(S50)	神路祇　優(H27)
顧問	池田　弘一(S38)	籾井　勝人(S40)
	秦　　喜秋(S43)	杉　　哲男(S43)
理事	三輪　晴治(S35)	古野　孝志(S55)
	吉元　利行(S53)	川原　　晃(S54)
	岩中　雄次(S63)	弥永　邦夫(H7)
	上田　純也(H8修)	岩貝　和幸(H15)
	境　　悦史(H17)	宮本　　傑(H17)
	稲波　祥子(H18)	亀井　祐輔(H20)
	日下部清香(H20)	水田　晃斉(H24)
	中村　龍太(H24)	上妻　諒子(H27)
	瀬藤　亮太(H27)	嶋田　直人(H27)
	宍田　莉菜(H29)	西原　圭也(R5)

関西支部

支部長	清丸　泰司(H２)	
副支部長	安藤　由紀(H２)	谷村　信彦(H３)
事務局長	凌　　雲翔(H16)	
事務局長代理	寺下　　進(H29)	
会計	平山浩一郎(H８)	
監事	権藤　健太(H４)	
顧問	小森田憲繁(S46)	太田　光一(S46)
	中野　光男(S50)	
理事	跡部　千春(S44)	甲斐　琢己(S44)
	久保　隆二(S49)	園田　一蔵(S49)
	佐藤　敏弘(S50)	中野　善文(S51)
	古賀　英基(S53)	冨山　幸三(S56)
	片山　基之(S57)	齊藤久美子(S58)
	川上　　寛(S58)	斉藤　浩志(S60)
	長野かおり(H１)	松浦　弘典(H１)
	北村　英照(H３)	川島　　満(H４)
	松延　　篤(H４)	向　勇一郎(H５)
	上田　純也(H８)	藤川　昇悟(H８)
	福本　翔悟(H20)	池上　慶悟(R５)

※支部長、副支部長、事務局長、事務局長代理、会計は理事を兼任する。

福岡支部

支部長	橋本　　上(S59)	
副支部長	貞刈　厚仁(S52)	平井　　彰(S55)
	村上　英之(S58)	内村　芳郎(S60)
	田川　真司(H２)	大石聡一郎(H２)
	宮本　義三(H３)	
事務局長	縄田　真澄(S62)	
監事	森　恍次郎(S45)	三浦　　正(S54)
評議員	沖　　弘隆(S41)	＊三浦　　正(S54)
	田中　和教(S61)	＊城戸　圭一(H６)
	右田　喜章(S42)	＊平井　　彰(S55)
	高本　英一(S62)	＊山崎　　浩(H７)
	貫　　正義(S43)	藤本　淳一(S55)
	＊縄田　真澄(S62)	＊沖本　浩司(H８)
	一丸　孝憲(S44)	池上　恭子(S56)
	白水　清隆(S63)	＊仲　　義雄(H10)
	鷭川　　洋(S45)	道永　幸典(S56)
	＊筴島　修三(H１)	＊宮﨑　真吾(H11)
	森　恍次郎(S45)	米村　健史(S56)
	田川　真司(H２)	＊安藤　大輔(H12)
	岩崎　俊彦(S49)	楠　　雅之(S57)

山﨑　正良(H2)　＊染井　洋介(H12)
光富　　彰(S51)　＊髙木　直人(S57)
＊末次　　隆(H2)　＊藤吉　由貴(H14)
工藤　重之(S52)　藤野(内田)直子(S58)
大石聡一郎(H2)　＊森　大輔(H16)
貞刈　厚仁(S52)　＊村上　英之(S58)
宮本　義三(H3)　徳久　裕記(H16)
志村　恭子(S52)　＊柴田　祐二(S59)
＊重吉　二憲(H4)　＊山本　裕介(H19)
岡田　裕二(S53)　友池　精孝(S59)
宇出　　研(H5)　＊成松　将俊(H20)
境　　正義(S53)　橋本　　上(S59)
＊森永　洋昭(H5)　＊永渕　大樹(H21)
吉村　展子(S53)　吉留　　郁(S59)
＊髙田　賢一(H5)　＊鐘ヶ江　翼(H24)
小川　重巳(S54)　内村　芳郎(S60)
＊石橋　治己(H6)　＊藤本　雄大(H29)
嶋田　正明(S54)　＊廣川　昌哉(S60)
＊角　　聡(H6)

※＊印は運営委員を兼任する。

九州大学経済学部同窓会歴代会長

初　代　田中　　定氏（昭和50年10月４日～）（３期８年）
第２代　森下　　弘氏（昭和58年２月４日～）（１期３年）
第３代　岡野　正實氏（昭和61年10月24日～）（２期６年）
第４代　谷川　大介氏（平成４年10月９日～）（１期１年）
第５代　渡邉　彦士氏（平成５年７月７日～）（１期３年）
第６代　福岡　道生氏（平成８年10月11日～）（１期３年）
第７代　吉田　清治氏（平成12年２月10日～）（１期２年）
第８代　森山　靖章氏（平成14年５月31日～）（１期３年）
第９代　平山　良明氏（平成17年７月７日～）（１期３年）
第10代　池田　弘一氏（平成20年７月７日～）（２期６年）
第11代　貫　　正義氏（平成26年７月７日～）（３期９年）
第12代　道永　幸典氏（令和５年７月７日～）

経済学部同窓会からのお願い
会費納入のご案内

平素より同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

同窓会では、今後の活動のさらなる充実をはじめ、卒業生相互の交流、在学生への支援、会報の発行など、会員のつながりを深めるための活動を行っております。これらの活動は、卒業生の皆様からお寄せいただく会費によって支えられています。今後も活動を継続・充実させていくため、会員の皆様に会費の納入をお願いしております。

なお、ご負担を少しでも軽減いただけるよう、一括納入のほか分割納入にも対応しております。ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

納入方法

一　括	3分割	6分割
45,000円	**15,000円×3回**	**7,500円×6回**
一度の納入で完了	1.5年間で完了	3年間で完了

■平成18年（2006年）３月末までに旧同窓会規約の終身会費をご納入いただいた皆様は、そのまま新同窓会規約の会員へ移行しております。

■令和７年（2025年）９月までの普通会員につきましては、会費の納入総額が45,000円に達した時点で以後の納入は不要となります。

■分割納入をご利用の方は、半年ごとに３回または６回、継続してお振り込みいただきますようお願いいたします。

■会費納入状況および住所変更等のデータは、毎年３月31日現在の情報をもとに集計しております。

ご住所やお名前等に変更がございましたら、下記事務局までご連絡ください。

九州大学経済学部同窓会事務局
平日（月～金）10：00～17：00
〒819－0395　福岡市西区元岡744　　TEL：092－802－5561　FAX：092－802－5560
dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp　http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/4

経済学研究院基金の創設とご支援のお願い

経済学研究院は、教育・研究活動の充実・発展へのご支援をいただくために、2025年に「経済学研究院基金」を創設いたしました。本基金は、教育・研究環境の整備を主な目的とし、学生の修学・留学支援、研究・出版助成をはじめ、次世代を担う人材の育成に活用する予定です。つきましては、同窓会の皆様のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。なお、本基金へのご寄附は、所得税法上の寄附金控除の対象となります。

設置目的

九州大学経済学部・経済学府・経済学研究院の教育・研究の充実のために、幅広く寄附を募ることを企図して設置いたしました。

主な使途

1．教育環境の整備

- 学生の修学支援
- 教育力向上の支援
- その他人材育成にかかわる支援

2．その他の活動

- 学術交流や学生交流に関する助成
- 教員への研究・出版助成
- 同窓会との連携に関する助成
- その他の経済学研究院の運営・発展に関する支援

◆お申し込み方法◆

ホームページまたはQRコードからアクセスいただき、「ご寄附情報の入力」画面にて、寄附目的「学部・研究院等へのご支援」より、「経済学研究院基金」をご選択ください。

経済学研究院基金

